

風吹けば 落つるもみぢ葉 水清み  
散らぬ影さへ 底に見えつつ

平安前期に活躍した三十六歌仙の一人、凡河内躬恒が、池のほとりで紅葉の散る様子を詠んだ歌で、「風に散って池に舞い落ちるもみぢの葉、その水は清く澄んでいるので、まだ枝に残っているもみぢ葉の姿までもが水面に映って見えている」という意味です。

淀んだ水面は、枝に残った紅葉を綺麗に映してくれません。人の心も同様に、不安や苛立ちで波立てば、物事をあるがままに映せなくなります。

秋晴れの空のように明るく澄み切った心をもって、物事に対処したい今日この頃いかがお過ごしでしょうか。

## お知らせ

- 次回 漢字検定 : R2年 2月8日(土)  
締切り日 : R1年12月27日(金)
- 次回 算数・数学  
思考力検定 : R2年2月22日(土)  
締切り日 : R2年1月16日(木)
- 11月23日(土) 勤労感謝の日  
祝日につきお休みします。
- 11月29日(金)・30日(土)  
第5週につきお休みします。
- 年末年始のお休み  
12月29日(日)～1月4日(土)



本校: TEL 087-868-1333  
中央公園校: TEL 087-862-2798  
英才教育研究所: 中央公園校 2F  
<http://www.nikken3.jp>

## 拡散思考で 発想する脳を育てる

1個の事柄についてさまざまな方面に考えを巡らせ、多くのアイデアを生み出す思考を、ギルフォードは拡散思考と名付けました。

いろいろな「企画」や「提案」、「問題解決法」を次々と発想するアイデアマンが得意とする思考様式です。この拡散思考を鍛えるには、拡散思考を何度も繰り返す他ありません。

課題を解くため「こうかな？」と仮説を立ててやってみて、「こうではなかった」と仮説を崩す。また仮説を立てては崩し、仮説を立てては崩す。

日研で学ぶ子ども達は、積木を使いながら、この過程を何度も何度も体験します。それによって拡散思考を鍛え、柔軟で創造的な発想する脳を育て上げていきます。